

授 業 概 要 （介護福祉科）

授業のタイトル（科目名） 総合福祉Ⅱ		授業の種類 講義	必修・選択
授業の回数 10回		配当学年・時期 2年・前期	時間数（単位数） 30時間（2単位）
授業担当者	実務経験	実務内容	
矢田 優子	○	急性期病院、クリニック、労災保険情報センターにて医療事務に従事（8年）、医療ビジネス講師に従事（15年）	
[授業の目的] 介護実践に必要な知識という観点から、介護保険制度について基礎的な知識を身につける。 介護保険制度の給付管理業務を理解する。			
[授業の概要] 介護保険制度の概要を理解し、介護報酬及び給付管理業務を学ぶ。 介護給付費明細書の作成方法を学ぶ。			
[授業終了時の達成課題（到達目標）] 1. 介護保険の仕組み・介護サービスの内容を理解できる。 2. 介護報酬及び保険給付業務が理解できる。 3. 介護給付費明細書を作成することができる。			
[各回のテーマ・内容・方法]			
回	テーマ・主題	内容の概要	
1	介護保険制度の概要	介護保険制度のしくみ 給付管理業務の実際	
2	介護報酬 介護給付費明細書作成	介護報酬の基礎知識、居宅サービス①	
3		居宅サービス②	
4		居宅サービス③	
5		地域密着型サービス、介護予防・日常生活支援総合事業	
6		施設サービス①	
7		施設サービス②	
8		施設サービス③	
9		施設サービス④	
10	検定対策	まとめ	
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
(使用テキスト) 日本医療事務協会 介護保険事務講座テキスト		(認定条件) ・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が3以上のもの (評価基準) 筆記試験50%、提出物10%、小テスト30%、授業態度10%	

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります。

授 業 概 要 （介護福祉科）

授業のタイトル（科目名） スポーツ福祉Ⅱ		授業の種類 講義演習	必修・選択
授業の回数 10回		配当学年・時期 2年・前期	時間数（単位数） 30時間（2単位）
授業担当者	実務経験	実務内容	
背古 鉄平	○	運動指導などの資格取得後、介護予防デイサービスに8年間勤務し、介護福祉士の資格取得後、住宅型有料老人ホームにて3年間勤務	
[授業の目的] 現代の超高齢社会において、病気を持ちながらも活動的で生きがいに満ちた自己実現できる新しい高齢者像が求められている。そういった高齢者像を実現するため、また超高齢社会の緊急課題である介護予防に対する社会的ニーズに対応するため、自立生活に必要不可欠である「身体機能の回復・維持・向上を主たる目的」とする運動指導の役割は大きいと考える。本授業では、その理論と実技の習得を目指すものとする。			
[授業の概要] 高齢者、障害者等に対する介護予防、要介護者への重症化予防に資する運動の指導ができるようになる。			
[授業終了時の達成課題（到達目標）] 1、高齢者、障害者、要介護者等に対する自立生活に向けた運動指導の必要性が理解できる 2、高齢者、障害者、要介護者の特性や個性に合わせた運動指導の全体像がわかる。 3、身体機能の維持・向上に向けた運動プログラムの構築ができる。			
[各回のテーマ・内容・方法]			
回	テーマ・主題	内容の概要	
1	介護予防運動論①	介護予防運動に関する知識 介護予防のための運動の必要性	
2	介護予防運動論②	身体運動に係わる概念用語に関する知識 レジャー、レクリエーション、スポーツ、体育、運動などの概念の理解	
3	介護予防運動論③	中高老年期及び要介護者の身体特性に関する知識 脳血管疾患、心疾患及びその増悪要因となる高血圧、糖尿病、高脂血症の理解 転倒骨折、関節疾患、衰弱による筋力低下など運動器の障害の理解	
4	救急救護に関する知識と実際 測定評価に関する知識と実際	高齢者に起こりやすい事故と病気 救急救護に必要なコミュニケーションの実際 測定評価の目的と項目の選択 測定方法の選択と測定結果の活用	
5	介護予防運動の実際①	筋力及び持久力の維持・向上に関する知識と実践 ・加齢に伴う持久力の低下と改善 ・高齢者に適した運動プログラムと実際 調整力及び柔軟性の維持・向上に関する知識と実践 ・介護予防運動としての調整力及び柔軟性とその実際 ・運動指導上の留意点	
6	介護予防運動の実際②		
7	介護予防運動の実際③		
8	介護予防運動の実際④	参加者を引き付ける運動指導（プレゼンテーション） 運動の日常生活化にむけた動機づけの方法	
9	介護予防運動の実際⑤	介護予防運動指導の実施と評価（実技試験含む）	
10	振り返りとまとめ	今までの振り返りとまとめ	
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
(使用テキスト) ・講談社 「高齢者の筋力トレーニング」 ・日本スポーツクラブ協会 「介護予防運動スペシャリスト資格認定テキスト」		(認定条件) ・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が3以上の者 (評価基準) ・試験及びレポート等により5点法とする。 (実技試験 40%、レポート 40%、授業態度 20%)	

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります。

授 業 概 要 （介護福祉科）

授業のタイトル（科目名） 福祉カウンセリングⅡ		授業の種類 講義	必修・選択
授業の回数 10回		配当学年・時期 2年・前期	時間数（単位数） 30時間（2単位）
授業担当者	実務経験		実務内容
豊田 順子	○		公認心理師・臨床心理士・学校心理士の資格を取得し、心理相談室でのカウンセラー、中学校・高校や専門学校にてスクールカウンセラーを10年間担当している
[授業の目的] 社会的認知など社会心理学の基礎を学び、かつコミュニケーションスキルを習得する演習を行うことにより、利用者や家族、チームに対するコミュニケーションスキルの向上につなげる。 回想法を学び、利用者の精神安定を図るツールとし、対象者のニーズや目的に応じた具体的な実践方法が分かる。 さらに、対人援助としてのカウンセリングスキルとして、回想法を活用することができる。			
[授業の概要] ・介護サービス下での回想法のみならず地域という場面での活用について学ぶ ・対象者のニーズと参加の目的を大切にすることを理解する ・実施者の資質や倫理について学ぶ ・多職種との連携について学ぶ			
[授業終了時の達成課題（到達目標）] (1) よい聞き手となり、より深い利用者理解への視点を身につけることができる。 (2) 高齢者のその人らしさを大事にし、その人の意思を尊重できる、人を人として尊敬できる。 (3) 対人援助の実践において、準備・計画を行い地域の中で実践することができる。			
[各回のテーマ・内容・方法]			
回	テーマ・主題		内容の概要
1	回想法の基本		回想法の歴史、意義、種類 回想法実施者の資質と守るべき倫理
2	回想法の目的と対象（1）		個人とグループ・地域と施設
3	回想法の目的と対象（2）		認知症のある高齢者と健康な高齢者
4	ニーズに応じた回想法の実際と展開（1）		グループホームにおける回想法 デイサービスにおける回想法
5	ニーズに応じた回想法の実際と展開（2）		さまざまなニーズに合わせた回想法
6	回想法の計画と準備		テーマの決定と準備 実施者の役割分担、計画準備上の留意点
7	回想法の実際（1）		実施中におけるさまざまな事態への対応（1）
8	回想法の実際（2）		実施中におけるさまざまな事態への対応（2）
9	回想法の実際（3）		記録について
10	回想法の効果と評価		回想法の評価方法
	まとめと評価試験		まとめと評価試験
〔使用テキスト・参考文献〕			〔単位認定の方法及び基準〕
Q＆Aで分かる回想法ハンドブック（中央法規出版） ＊《教員参考教材》 NHKアーカイブス「認知症・高齢者のために思い出を今に活かす回想法」 テレビ回想法「懐かしい話」DVDコレクション 地域の社会資源：博物館、資料館、回想法貸し出しキット			（認定条件） ・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が3以上のもの （評価基準） ・筆記試験50％ ・授業態度・小テスト50％

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります。

授 業 概 要 （介護福祉科）

授業のタイトル（科目名） 国際理解 II		授業の種類 講義	必修・選択 選択
授業の回数 15回		配当学年・時期 2年・前期	時間数（単位数） 30時間（2単位）
授業担当者	実務経験	実務内容	
[授業の目的] 介護の基本、応用、文化活動への参加から対象者を理解し、国家資格介護福祉士について理解すること で日本の介護を国際的な視点から国内外に向けて発信できるようになる。			
[授業の概要] 日本の国家資格ライセンスについて理解し、介護福祉に適応できる語彙、知識を深める。 国際社会の福祉の現状を理解し、その支援に必要な基礎的な知識を学ぶ。			
[授業終了時の達成課題（到達目標）] 1. 国際的に福祉にかかわる者として、必要とされる知識、技術がわかる。 2. 国際社会で求められる社会人としての立ち居振る舞い、必要とされるコミュニケーション力が身につく。 3. 国家試験ライセンスについて理解する。試験問題の文章の読み、解釈ができる。（問題が読めて、何を 問われているかがわかる。解答は各教科の授業内容とする）			
[各回のテーマ・内容・方法]			
回	テーマ・主題	内容の概要	
1	多様な暮らしと福祉①	多様な生活及び文化 ・世界の人口と課題 ・言語 ・宗教と暮らし ・政治と福祉の動向	
2	多様な暮らしと福祉②		
3	多様な暮らしと福祉③		
4	多様な暮らしと福祉④		
5	多様な暮らしと福祉⑤		
6	多文化共生社会の理解①	多文化共生社会の理解 ・生活者としての様々な対象者の理解 ・様々な対象者のおかれている現状の理解 ・様々な対象者の課題の理解 ・様々な対象者の自立に向けた支援の理解	
7	多文化共生社会の理解②		
8	多文化共生社会の理解③		
9	多文化共生社会の理解④		
10	多文化共生社会の理解⑤		
11	多文化共生社会の理解⑥		
12	多文化共生社会の理解⑦		
13	多文化共生社会の理解⑧		
14	まとめ①	まとめ	
15	まとめ②		

〔使用テキスト・参考文献〕	〔単位認定の方法及び基準〕
【使用テキスト】「まるごと日本のことばと文化 初級1 A2かつどう」 三修社 【参考文献】「外国人のためのやさしく学べ」 中央法規出版	(認定条件) ・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が3以上の者 (評価基準) ・テスト：30% ・提出物：30% ・授業態度：30% ・レポート：10%

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります。

授 業 概 要 （介護福祉科）

授業のタイトル（科目名） 社会の理解		授業の種類 講義	必修・選択 必修
授業の回数 30回		配当学年・時期 2年・通年	時間数（単位数） 60時間（4単位）
授業担当者	実務経験	実務内容	
岩雲 佳代	○	障害者福祉に30年携わり実践を重ね、相談業務に従事する社会福祉士として必要な情報提供・連携を実施してきた	
[授業の目的]			
福祉の理念を理解し、尊厳の保持や権利擁護の視点及び専門職としての基盤となる倫理観を養う。介護実践に必要な知識という観点から、社会保障の制度、施策についての基礎的な知識を身につける。 個人が自立した生活を営むと言うことを理解するため①個人と家族・地域・社会との関係性、②自助・互助・共助・公助のそれぞれの役割、③我が国の社会保障の基本的な考え方、④社会保障の変遷・しくみについて学ぶ。			
[授業の概要]			
介護保険制度・障害者総合支援法に関連する諸制度の背景や、その目的について理解させるとともに、これらの制度が実際どのように活用されているのかについて具体例を挙げながら講義する。 人間の生活が社会や様々な制度との関係性を持ちながら営まれていることが理解できるよう、具体例を挙げながら講義する。			
[授業終了時の達成課題（到達目標）]			
①地域共生社会や地域包括ケアシステムの基本的な考え方としくみ、その実現のための制度や施策を理解する。 ②社会保障制度の基本的な考え方としくみを理解するとともに、社会保障の現状と課題を捉える内容とする。 ③高齢者福祉制度の基本的な考え方としくみ、介護保険制度の内容を理解し、高齢者福祉の現状と課題について学ぶ。 ④障害者福祉制度の基本的な考え方としくみ、障害者総合支援法の内容を理解し、障害者福祉の現状と課題について学ぶ。 ⑤人間の尊厳と自立に関わる権利擁護や個人情報保護など、介護実践に関連する制度・施策の基本的な考え方としくみを理解する。 ⑥個人・家族・地域・社会のしくみと、地域における生活の構造について学び、生活と社会の関わりや自助・互助・共助・公助の展開について理解する			
[各回のテーマ・内容・方法]			
回	テーマ・主題	内容の概要	
1	オリエンテーション	授業概要・授業の進め方・社会福祉とは	
2	生活と社会福祉①	・生活とは ・家族とは ・地域社会と個人 ・人と社会、組織 ・現代におけるライフスタイルの変化 ・社会福祉と社会保障	
3	生活と社会福祉②		
4	生活と社会福祉③		
5	生活と社会福祉④		
6	生活と社会福祉⑤		
7	社会保障の仕組み①	・社会保障の基本的な考え ・日本の社会保障制度の体系 （医療保険・年金保険・介護保険・労働者関係の社会保険） ・公的扶助（生活保護）	
8	社会保障の仕組み②		
9	社会保障の仕組み③		
10	社会保障の仕組み④		

11	介護保険制度①	・介護保険制度の目的 ・介護サービスの内容 ・専門職の役割 ・介護保険制度の改正の流れと地域包括ケア
12	介護保険制度②	
13	介護保険制度③	
14	介護保険制度④	
15	まとめ	総まとめ
16	介護保険制度⑤	・介護サービスのしくみ ・介護認定 ・介護予防とケアマネジメント
17	介護保険制度⑥	
18	介護保険制度⑦	
19	障害者の支援を担う法制度①	・障害者自立支援制度の目的 ・障害者自立支援制度のしくみ ・障害者福祉施策の動向 ・サービス体系（障害者ケアマネジメント）
20	障害者の支援を担う法制度②	
21	障害者の支援を担う法制度③	
22	障害者の支援を担う法制度④	
23	障害者の支援を担う法制度⑤	
24	障害者の支援を担う法制度⑥	
25	介護実践に関わる諸制度①	・権利擁護 ・保健医療に関わる諸施策 ・虐待防止の諸制度
26	介護実践に関わる諸制度②	
27	介護実践に関わる諸制度③	
28/29	まとめ①	国家試験にむけて総復習
30	まとめ②	総まとめ
〔使用テキスト・参考文献〕		〔単位認定の方法及び基準〕
最新・介護福祉士養成講座2 社会の理解 （中央法規出版）		（認定基準）・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が3以上の者 （評価基準）筆記試験 50%、小テスト 30%、授業態度 20%

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります。

授 業 概 要 （介護福祉科）

授業のタイトル（科目名） 介護の基本 I B		授業の種類 講義	必修・選択 必修
授業の回数 10回		配当学年・時期 2年・前期	時間数（単位数） 30時間（2単位）
授業担当者	実務経験	実務内容	
岩雲 佳代	○	社会福祉士として専門職後見人として携わる	
[授業の目的]			
利用者本位のサービスを提供する介護の専門職として関わっていくために「尊厳の保持」や「自立支援」についての理解を深め、誰もが人間としての尊厳が守られ、生活者として主体的に生きることを可能にするための人間尊重を基盤とした「介護観」を育成。他の教科で学習した知識を活用し、介護を必要とする人の理解を深める。介護はその人の生活だけでなく、その人の人生にも大きく影響することを理解し、介護福祉士としての能力を養う。			
[授業の概要]			
介護福祉士に求められている「尊厳を支える介護」の提供について、その考え方の理解を深めるとともに、その介護職が行う様々な生活支援の意義や実践について、専門職業人として考えていく。介護を必要とする人を生活の観点から理解を深めることで人間の多様性及び高齢者の暮らしの実際や障害がある人への理解へ繋げ、介護を必要とする人の生活環境の考え方を理解する。			
[授業終了時の達成課題（到達目標）]			
①「利用者主体」の考え方のもと、介護を受ける側の気持ちを理解したうえで、尊厳を支える介護とはどのようなことかを考え実践できる。 ②介護場面における倫理的課題について理解し、尊厳を支えるための専門職としての倫理観をもった行動がとれる。 ③そのひとらしい生活を行うためにはどのような介護が必要なのか考えるための洞察力や多角的な観察力を養い、利用者を全人的に理解できるようになる。 ④生活上の課題の解決のために必要な相談援助の意義を理解し、利用者本人だけでなく家族や地域社会とのつながりを支援する方法を学ぶ。 ⑤介護実践における他職種の役割を学び、チームワークに参画する意義、連携方法を理解できる。			
[各回のテーマ・内容・方法]			
回	テーマ・主題	内容の概要	
1	オリエンテーション	授業概要と達成目標の説明 1年次の復習	
2	様々な生活支援とその意義①	身体介護と生活援助の意義と目的を考える 各支援ごとのあり方やその介護の目的について理解する	
3	尊厳を支える介護①	尊厳を支える介護について考える 介護される側の気持ちを理解する	
4	尊厳を支える介護②	事例から尊厳を支える介護について考える	
5	尊厳を支える介護③	ノーマライゼーション、QOLの理解 実習での視点について	
6	尊厳を支える介護④	実習施設で行われていた尊厳を支える介護について振り返る	
7	様々な生活支援とその意義①	障害のある人の気持ちの理解と必要な生活支援について考える	
8	様々な生活支援とその意義②	高齢者の人生に寄り添う生活支援の意義を理解する	
9	介護の働きと基本的視点①	筆記試験 防災について考える	
10	介護の働きと基本的視点②	あべの防災センター見学	

〔使用テキスト・参考文献〕	〔単位認定の方法及び基準〕
最新・介護福祉士養成講座3「介護の基本Ⅰ」 （中央法規出版）	（認定条件） ・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が3以上の者 （評価基準） ・提出物：20％ ・授業態度：10％ ・試験：70％

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります。

授 業 概 要 （介護福祉科）

授業のタイトル（科目名） 介護の基本Ⅱ		授業の種類 講義	必修・選択 必修
授業の回数 30回		配当学年・時期 2年・通年	時間数（単位数） 60時間（4単位）
授業担当者	実務経験	実務内容	
小津 順子	○	看護師として病棟・訪問看護・デイケアに勤務。認知症グループホームの管理者経験。老人保健施設での介護予防とレクリエーション援助業務を経て、地域高齢者への介護予防と生きがい支援活動を現在も継続中。	
〔授業の目的〕			
利用者本位のサービスを提供する介護の専門職として関わって行く為の知識を学び、利用や家族の「生活の安全」を実現・確保するためのセーフティマネジメントの在り方、その基盤となる介護従事者の安全に関する知識を学び、生活支援技術や介護過程、介護実習に役立てられるようになる。			
〔授業の概要〕			
利用者にとって最も身近な介護従事者が多様な介護ニーズへ適切に対応する介護サービスの特徴を知る。また、多様な介護現場で利用者の生活の安全を守るセーフティマネジメントを展開するための基礎的な力を培い、その実現には、介護従事者自らの健康や安全が保障されるべきであることへの認識を深め、実習、職場においても実践できることを目指す。			
〔授業終了時の達成課題（到達目標）〕			
①介護サービスの特徴、チームアプローチによるサービスの提供についてイメージが図れる。 ②安全の概念を予防・自立の点から考察し、セーフティマネジメントの在り方を理解し説明できる。 ③緊急時対応の役割を認識し、必要な知識・技術を習得する。 ④介護従事者の安全・健康管理を保証するための知識・技術を活用できるようになる。			
〔各回のテーマ・内容・方法〕			
回	テーマ・主題	内容の概要	
1	オリエンテーション	授業概要と達成課題の説明 介護福祉士を取りまく現状	
2	介護福祉士とは	社会福祉士及び介護福祉士法 介護福祉士の倫理	
3	介護における安全の確保①	事故防止と安全対策 感染管理のための方策	
4	介護に携わる人の健康管理①	安心して働ける環境づくりのための方策	
5	介護サービスの特性①	ケアマネジメントの流れとしくみ ケアマネジメントと介護過程	
6	介護サービスの特性②	高齢者に対する入所系サービスの提供の場とその特性	
7	介護における連携①	協働職種の理解と連携のあり方	
8	実習を振り返って	グループワーク：介護施設における介護福祉士の役割	
9	介護サービスの特性③	介護サービス提供の場の特性 高齢者施設	
10	介護サービスの特性④		
11	介護サービスの特性⑤	介護サービス提供の場の特性 介護保険の地域密着型サービス	
12	介護サービスの特性⑥		
13	介護サービスの特性⑦	介護サービス提供の場の特性 障害者のサービス	
14	介護サービスの特性⑧		
15	試験	筆記試験 前期まとめ	
16	介護実践における連携②	多職種連携の意義と目的	
17	介護実践における連携③	医療・福祉に関した専門職	
18	介護実践における連携④	感染症とその対策	
19	介護実践における連携⑤	こころの健康管理	
20	介護における安全の確保②	介護における安全確保の重要性	
21	介護における安全の確保③	安全対策のためのリスクマネジメント	
22	介護における安全の確保④	感染対策の方策	
23	介護における安全の確保⑤	個別の感染対策	
24	介護に携わる人の健康管理②	介護という仕事の特徴 介護者の健康と介護の質	
25	介護に携わる人の健康管理③	こころの健康管理	

26	介護に携わる人の健康管理④	からだの健康管理
27	介護に携わる人の健康管理⑤	労働に関する法律と環境の整備
28	現在の介護の現状	新聞記事から考える グループワーク
29	試験	筆記試験 これからの介護と介護福祉士の役割
30	まとめ	専門職業人としての介護福祉士
〔使用テキスト・参考文献〕		〔単位認定の方法及び基準〕
新・介護福祉士養成講座 介護の基本Ⅱ (中央法規出版) プリント		(認定条件)出席が時間数の3分の2以上ある者 成績評価が3以上の者 (評価基準)テスト50%、提出物30%、授業態度20% 習熟状況等により授業の展開が変わることがあります。

授 業 概 要 （介護福祉科）

授業のタイトル（科目名） コミュニケーション技術Ⅱ		授業の種類 講義・演習	必修・選択 必修
授業の回数 15回		配当学年・時期 2年・後期	時間数（単位数） 30時間（2単位）
授業担当者	実務経験	実務内容	
田井 美子	○	手話講習会の講師として8年間、手話通訳者としても3年勤めている	
[授業の目的]			
対人援助職としてのコミュニケーションのあり方について理解し、具体的な利用者・家族に対するコミュニケーションの技法、ならびに介護チームの他職種間のコミュニケーション技法について学び、習得する。			
[授業の概要]			
さまざまな介護場面において、専門家として適切な支援を行うためには、利用者や家族、他の専門職とのコミュニケーションが必要になる。そのため、介護者には高いレベルのコミュニケーション技術が要求されることになる。コミュニケーションの基本（介護におけるコミュニケーションの意義・目的・役割、利用者・家族との関係作りなど）を理解した上で、具体的なコミュニケーション技法（話を聴く技法、感情表現を察する技法、意欲を引き出す技法）を演習を通じて習得する。			
[授業終了時の達成課題（到達目標）]			
①介護におけるコミュニケーションの意義・目的・役割について理解し、自分の言葉で説明できる。 ②利用者・家族との関係作りについて理解する。 ③感覚機能、運動機能、認知・知覚機能が低下している利用者の状態について理解し、それに応じたコミュニケーション技法について学び、習得する。 ④聴覚障害について理解し、手話で自己紹介や挨拶の表現ができる。			
[各回のテーマ・内容・方法]			
回	テーマ・主題	内容の概要	
1	オリエンテーション	授業の目的・聴覚障害の理解	
2	手話表現①	実技 ・手話表現の基礎 ・名前、家族、挨拶の表現 ・疑問詞、数の表現	
3	手話表現②		
4	手話表現③		
5	手話表現④		
6	手話表現⑤		
7	手話表現⑥		
8	聴覚障害者の理解	聴覚障害者の生活の理解	
9	手話表現⑦	実技 ・趣味、仕事、住所の表現 ・聴覚障害と福祉に関する理解	
10	手話表現⑧		
11	手話表現⑨		
12	まとめ	総まとめ・実技試験	
13	復習①	DVD演習（読み取り） 自己紹介などの手話表現	
14	復習②		
15	まとめ		

〔使用テキスト・参考文献〕	〔単位認定の方法及び基準〕
最新・介護福祉士養成講座 生活支援技術Ⅲ （中央法規出版） 「手話を学ぼう 手話で話そう」 （社会福祉法人 全国手話研修センター）	（認定基準）・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が3以上の者 （評価基準）・総まとめ50％ 授業・演習態度50％

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります。

授 業 概 要 （介護福祉科）

授業のタイトル（科目名） 生活支援技術Ⅲ		授業の種類 講義・演習	必修・選択 必修
授業の回数 20回		配当学年・時期 2年・前期	時間数（単位数） 60時間（4単位）
授業担当者	実務経験	実務内容	
林 彩香	○	看護師として重症心身障害児・者病棟にて4年、健康診断関連業務1年、訪問看護ステーションにて2年勤務	
〔授業の目的〕 ・介護を実践する対象・場によらず、さまざまな場面に必要とされる介護の基礎的な知識・技術を習得する。 ・日常生活の介護において、様々な障害により妨げられている要介護者に対して、ICFの概念に基づいて自立支援に向けた介護の実践がおこなえる基本視点を獲得する。 ・さまざまな家事の援助技術を提供していく上での基本行動の理解と知識、家事の介助に関する技術を学び、現場で自ら考えて実践できる能力や利用者の個性に対応できるための能力を習得する。 ・人の死をどのようにとらえ、理解するかを学ぶ。			
〔授業の概要〕 ・脳卒中・パーキンソン病・リウマチ・脊髄損傷・重度重複障害・高次脳機能障害などの疾患の特徴と介護の臨床学的アプローチについて講義と実技から学ぶ。 ・介助を必要とする人の生活を重視し、個性を尊重し幅広い生活上の援助を行うための基礎となる技術を幅広く習得していくことを目指す。 ・終末期を迎えたひとのからだや心の状態について学ぶ。終末期を迎えた人や家族への介護、医療職との連携について学ぶ。			
〔授業終了時の達成課題（到達目標）〕 ・障害を持つ要介護者の自立支援介護の実践が行えるための基本技術が修得できる。 ・家事の介助を必要とする人の状態を把握し、適切な家事のための技術を選択することができる。 ・訪問介護の現場や訪問介護員の動きをイメージし、訪問介護実習の準備をする。 ・終末期を迎えた人のからだやこころの状態について理解する。 ・終末期を迎えた人、家族への介護、医療職との連携について理解しケアプランを考えることができる。			
〔各回のテーマ・内容・方法〕			
回	テーマ・主題	内容の概要	
1	オリエンテーション	授業の進め方・利用者の状態・状況に応じた生活支援技術とは	
2	障害に応じた生活支援技術①	身体状況に応じた介護・パーキンソン病の介護	
3	障害に応じた生活支援技術②	疾患の特性に合わせた介護・脳卒中の方の床上介護	
4	障害に応じた生活支援技術③	疾患の特性に合わせた介護・脳卒中の方の起居と移乗動作の介護	
5	障害に応じた生活支援技術④		
6	障害に応じた生活支援技術⑤		
7	障害に応じた生活支援技術⑥	整形疾患の介護の視点・福祉用具の活用・自助具の応用	
8	さまざまな生活支援技術①		
9	さまざまな生活支援技術②		
10	さまざまな生活支援技術③	・事例検討（グループワーク・演習） ・総まとめ	
11	障害に応じた生活支援技術⑦		
12	障害に応じた生活支援技術⑧		
13	障害に応じた生活支援技術⑨	・視覚障害者に対する生活支援技術（演習） ・聴覚障害者に対する生活支援技術（グループワーク）	
14	障害に応じた生活支援技術⑩		
15	障害に応じた生活支援技術⑪		
16	さまざまな生活支援技術④	・訪問介護を想定したさまざまな環境における生活支援技術 ・訪問介護における介護福祉士に必要な接遇	
17	さまざまな生活支援技術⑤		
18	さまざまな生活支援技術⑥		
19	さまざまな生活支援技術⑦		
20	まとめ	総まとめ	
〔使用テキスト・参考文献〕		〔単位認定の方法及び基準〕	
最新・介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅱ 最新・介護福祉士養成講座 8 生活支援技術Ⅲ （中央法規出版）		（認定条件）・出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が3以上の者 （評価基準）・筆記試験 50％ 課題レポート 30％ 授業態度 20％	

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります。

授 業 概 要 （介護福祉科）

授業のタイトル（科目名） 生活支援技術Ⅲ		授業の種類 講義・演習	必修・選択 必修
授業の回数 15回		配当学年・時期 2年・後期	時間数（単位数） 30時間（2単位）
授業担当者	実務経験	実務内容	
澤端 由紀子	○	看護師として病院勤務を7年6ヶ月、グループホームにて2年間勤務し認知症ケア専門士の資格を取得 現在は訪問看護にて高齢者および認知症高齢者の看護を約10年実践している	
〔授業の目的〕 ・介護を実践する対象・場によらず、さまざまな場面に必要とされる介護の基礎的な知識・技術を習得する。 ・日常生活の介護において、様々な障害により妨げられている要介護者に対して、ICFの概念に基づいて自立支援に向けた介護の実践がおこなえる基本視点を獲得する。 ・人の死をどのようにとらえ、理解するかを学ぶ。 ・終末期を迎えた人の生活を意味のあるものとするための介護福祉士の役割を理解する。			
〔授業の概要〕 ・介助を必要とする人の生活を重視し、個性性を尊重し幅広い生活上の援助を行うための基礎となる技術を幅広く習得していくことを目指す。 ・終末期を迎えたひとのからだや心の状態について学ぶ。終末期を迎えた人や家族への介護、医療職との連携について学ぶ。			
〔授業終了時の達成課題（到達目標）〕 ・障害を持つ要介護者の自立支援介護の実践が行えるための基本技術が修得できる。 ・終末期を迎えた人のからだやこころの状態について理解する。 ・死後のケアについての基本的な知識を得る。 ・終末期を迎えた人、家族への介護、医療職との連携について理解しケアプランを考えることができる。			
〔各回のテーマ・内容・方法〕			
回	テーマ・主題	内容の概要	
1	オリエンテーション	授業の進め方・終末期ケアとは	
2	終末期の意義と介護の役割	死のとらえ方・尊厳死を考える・終末期から危篤、死亡時のからだ	
3	終末期における介護技術①	・「死」に対するこころの理解 ・「死」について考える、準備教育 ・高齢者の死生観について ・終末期に出現する体の変調と介護 ・疾患、年齢別の終末期の特徴	
4	終末期における介護技術②		
5	終末期における介護技術③		
6	終末期の介護における他職種協働①	・医療職との連携 ・看取りについての理解	
7	終末期の介護における他職種協働②		
8	終末期の介護①	事例検討・介護過程の展開を考える	
9	終末期の介護②		
10	終末期の介護③	死後の法的な手続き	
11	終末期の介護④	家族支援の視点	
12	終末期の介護⑤	死の準備教育、終活	
13	国家試験対策①	さまざまな生活支援技術に関する考え方	
14	国家試験対策②		
15	まとめ	総まとめ	
〔使用テキスト・参考文献〕		〔単位認定の方法及び基準〕	
最新・介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅱ 最新・介護福祉士養成講座 8 生活支援技術Ⅲ （中央法規出版）		（認定条件）・出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が3以上の者 （評価基準）・筆記試験 50％ 課題レポート 30％ 授業態度 20％	

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります。

授 業 概 要 （介護福祉科）

授業のタイトル（科目名） 介護過程Ⅱ		授業の種類 講義	必修・選択 必修
授業の回数 30回		配当学年・時期 2年・通年	時間数（単位数） 90時間（6単位）
授業担当者	実務経験	実務内容	
中嶋 和泉	○	特別養護老人ホーム・通所介護事業所・有料老人ホームにて介護職として10年勤務	
〔授業の目的〕 介護実習で経験したさまざまな介護の場面を振り返り、介護の実践過程を構成する要素（人的、環境、ツール）の特性や活用方法を学ぶ。介護過程におけるチームアプローチの重要性と介護福祉士として求められる専門性を自覚する。現在使用されているアセスメントツールの特性を知り、その特徴と使用することの利点を理解する。			
〔授業の概要〕 介護過程は個々の介護ニーズを的確に把握し、計画的に介護を実践・評価していく科学的な問題解決法であることを理解する。利用者の生活の質の向上に向けて、生活上の課題を把握し、それを解決していくために必要な介護のあり方を個別に考察し計画を立て、実施・評価していく一連の流れを理解する。また、利用者の多様なニーズに応えるため、他職種との連携も求められている。			
〔授業終了時の達成課題（到達目標）〕 ・介護サービス利用者が生活する環境を考慮し、その場その場で最善の支援ができるよう、既存のサービス、社会資源を活用した介護過程を展開できるようになる。 ・アセスメントの意義を理解し、なぜその項目が必要か説明することができる。 ・介護過程の展開における評価の重要性を理解し、その評価が妥当なものであるかどうかの判断、また他者への計画への正当な評価ができるようになる。			
〔各回のテーマ・内容・方法〕			
回	テーマ・主題	内容の概要	
1	オリエンテーション 介護過程の意義と目的	授業の進め方・復習・介護過程の理解	
2	介護過程の理解①	・情報収集の方法、アセスメント、病態生理 ・課題の抽出 ・計画の立案（長期・短期目標、援助内容）	
3	介護過程の理解②		
4	介護過程の理解③	事例を通して介護過程を理解する	
5	介護過程の理解④	実習で担当した利用者の情報を整理して、介護過程を展開する	
6	介護過程の理解⑤		
7	介護過程の理解⑥		
8	介護過程の理解⑦	・計画の実施 ・評価方法、計画の再立案 ・個別援助計画書の書き方	
9	介護過程の理解⑧		
10	介護過程の理解⑨		
11	介護過程の理解⑩		
12	利用者の特性に応じた介護過程の実践的展開①	実習で担当した利用者の情報を整理して、介護過程を展開する（実習Ⅱ・帰校日）	
13	利用者の特性に応じた介護過程の実践的展開②		
14	利用者の特性に応じた介護過程の実践的展開③	実習Ⅱで計画・実践し評価した個別援助計画を振り返り、計画の再立案をする	
15	利用者の特性に応じた介護過程の実践的展開④		
16	利用者の特性に応じた介護過程の実践的展開⑤		
17	利用者の生活と介護過程の展開①	事例を通して介護過程を展開し、他者の意見を取り入れ介護計画を立案する方法を理解する	
18	利用者の生活と介護過程の展開②		
19	利用者の生活と介護過程の展開③		

20	利用者の特性に応じた介護過程の実践的展開⑥	事例を通して介護過程を展開し、他者の意見を取り入れながら生活の質の向上を意識した介護計画を立案する
21	利用者の特性に応じた介護過程の実践的展開⑦	
23	利用者の生活と介護過程の展開④	グループワークを通して、事例で考える利用者の生活と介護過程の展開
24	利用者の生活と介護過程の展開⑤	
25	利用者の生活と介護過程の展開⑥	
26	介護過程とチームアプローチ	チームアプローチにおける介護福祉士の役割を理解する
27	介護過程とケアマネジメントの関係性	ケアプランと個別援助計画の関係性を考える
28	国家試験対策①	過去問題を解き、問題の傾向を理解する
29	国家試験対策②	
30	まとめ	総まとめ・振り返り
〔使用テキスト・参考文献〕		〔単位認定の方法及び基準〕
最新・介護福祉士養成講座 介護過程（中央法規出版）		（認定条件）・出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が3以上の者 （評価基準）・筆記試験 50％ 課題 30％ 授業態度 20％

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります。

授 業 概 要 （介護福祉科）

授業のタイトル（科目名） 介護総合演習Ⅱ		授業の種類 講義	必修・選択 必修
授業の回数 15回		配当学年・時期 2年・前期	時間数（単位数） 30時間（2単位）
授業担当者	実務経験	実務内容	
中嶋 和泉	○	特別養護老人ホーム・通所介護事業所・有料老人ホームにて介護職として10年間勤務	
[授業の目的]			
・介護実践に必要な知識や技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う。 ・1年次における実習において明確化した課題の改善に向けて学習し知識と技術の向上を目指す統合能力を養う ・これまでの学内での学びを統合して、実践場面に適用できる柔軟性や応用力、判断力が求められると同時に、介護場面で遭遇した課題を解決するための主体的な行動力の必要性について学ぶ。			
[授業の概要]			
・実習を振り返り、介護の知識や技術を実践と結び付けて統合、深化させるとともに、自己の課題を明確にし専門職としての態度を養う。 ・実習施設の役割と機能、施設利用者とその家族の生活ニーズを理解し、介護福祉士の役割と自立支援に向けた他職種協働の意義と役割を実習を通して理解する。 ・質の高い介護実践やエビデンスの構築につながる実践研究の意義とその方法を理解する。			
[授業終了時の達成課題（到達目標）]			
・実習施設の概要と利用者ニーズを整理・理解でき、介護福祉士に求められる倫理性と専門性を明確化できる。 ・介護実習の振り返りや他者とのディスカッションを通して自己を客観的に振り返り、次の段階に向けた課題を明確化できる。 ・個別ケアや多様なサービス形態のあり方を理解できる。 ・個別ケアを行うための介護過程を展開できる。 ・展開した介護過程を事例研究し、小論文にまとめることができる。			
[各回のテーマ・内容・方法]			
回	テーマ・主題	内容の概要	
1	介護実習Ⅱで何を学ぶか	実習Ⅱの流れを理解する	
2	介護実習前後の流れ①	・実習の個人目標を考える ・実習の進め方を計画する ・実習記録用紙の準備 ・実習報告会の準備	
3	介護実習前後の流れ②		
4	介護実習前後の流れ③		
5	介護実習前後の流れ④		
6	介護実習前後の流れ⑤		
7	帰校日	・個別援助計画のアセスメント、立案、実施の振り返り ・カンファレンスの準備	
8	帰校日		
9	実習報告会	実習の学びを共有する	
10	事例研究について	事例研究の意義と内容を理解する	
11	ケーススタディ①	実習Ⅱで個別援助計画を実施した内容を振り返り、ケーススタディとしてまとめる	
12	ケーススタディ②		
13	ケーススタディ③		
14	ケーススタディ④		
15	ケーススタディ⑤		
16	事例研究①	介護における研究の意義と役割	
17	事例研究②	・研究の進め方 ・研究のテーマ ・研究の計画 ・先行研究、データ収集 ・研究論文のまとめ方 ・研究発表の方法と準備	
18	事例研究③		
19	事例研究④		
20	事例研究⑤		
21	事例研究⑥		
22	事例研究⑦		
23	事例研究⑧		
24	事例研究⑨		

25	事例研究⑩	・研究活動 データの考察・論文をまとめる・抄録の作成・発表準備
26	事例研究⑪	
27	事例研究⑫	
28	事例研究⑬	
29	事例研究⑭	
30	事例研究⑮	発表会・振り返り
〔使用テキスト・参考文献〕		〔単位認定の方法及び基準〕
最新・介護福祉士養成講座 介護総合演習・介護実習 （中央法規出版） 『よくわかる介護福祉研究入門』（保育社）		（認定条件）・出席が総時間数の3分の2以上ある者・成績評価が3以上の者 （評価基準）・課題レポート 50％ ・授業態度 50％

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります。

授 業 概 要 （介護福祉科）

授業のタイトル（科目名） 介護総合演習Ⅱ		授業の種類 講義・演習	必修・選択 必修
授業の回数 15回		配当学年・時期 2年・後期	時間数（単位数） 30時間（2単位）
授業担当者	実務経験	実務内容	
館	○	パソコンスクールにてインストラクター養成・テキスト問題集開発（18年） 大学の就職対策、パソコン講座（9年）	
[授業の目的] 高齢者・障がい者を取巻く情報や情報技術がはたしている役割や生活に及ぼす影響を知り、暮らしに役立つ情報の活用の仕方を学ぶ。事例発表に向けて効果的なプレゼンテーション方法を学ぶ。			
[授業の概要] 情報を科学的に理解し、情報発信のしくみを理解し情報機器の操作ができる。			
[授業終了時の達成課題（到達目標）] パソコンの基本操作、文書作成や編集作業を修得し、社会現場に出て介護計画、介護研究、プレゼンテーションに役立てることができる。			
[各回のテーマ・内容・方法]			
回	テーマ・主題	内容の概要	
1	オリエンテーション	授業概要・パソコンの基本操作	
2	Windowsの基本操作と画面構成①	・Wordの基本操作と入力 ・ビジネス文書の作成 ・文書の保存 ・表の作成 ・インターネットの利用方法と活用 ・振り返り	
3	Windowsの基本操作と画面構成②		
4	Windowsの基本操作と画面構成③		
5	Windowsの基本操作と画面構成④		
6	Windowsの基本操作と画面構成⑤		
7	Windowsの基本操作と画面構成⑥		
8	Windowsの基本操作と画面構成⑦		
9	Excelの基本操作と画面構成①	・Excelの基本操作 ・データ入力 ・関数 ・グラフの作成	
10	Excelの基本操作と画面構成②		
11	Excelの基本操作と画面構成③		
12	PPTの基礎操作と応用①	・PPTの基礎操作 ・事例発表に向けてのスライド作成	
13	PPTの基礎操作と応用②		
14	PPTの基礎操作と応用③		
15	まとめ	総まとめ	
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
30時間でマスター Word&Excel2013 （実教出版）		（認定条件）・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が3以上の者 （評価基準）・筆記試験、実技試験 80% 授業態度 20%	

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります。

授 業 概 要 （介護福祉科）

授業のタイトル（科目名） 介護実習 I		授業の種類 実習	必修・選択 必須
授業の回数		配当学年・時期 1年 通年・2年 後期	時間数（単位数） 270時間（9単位）
授業担当者	実務経験	実務内容	
中嶋 和泉	○	介護福祉士として特別養護老人ホーム・有料老人ホーム・通所介護事業所にて10年間勤務	
[授業の目的]			
地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的能力を習得する学習とする。本人の望む生活の実現に向けて、他職種との協議の中で、介護過程を実践する能力を養う学習とする。			
[授業の概要]			
対象者の生活と地域との関わりや地域での生活を支える施設・機関の役割を理解し、地域における生活支援を実践的に学ぶ内容とする。 ＜実習施設種別＞ 1年次 6月 4日間×2クール（グループホーム・デイサービス・デイケアサービス） 1年次 10月 8日間（介護老人福祉施設・介護老人保健施設・障害者支援施設） 1年次 1月 16日間（介護老人福祉施設・介護老人保健施設・障害者支援施設） 2年次 10月 4日間（訪問介護事業所）			
[授業終了時の達成課題（到達目標）]			
・地域で暮らす高齢者や障害のある人が施設などを利用しながら、その人らしさを維持しながら生活する状況について理解する ・その生活を継続させるためには何が必要なのかという個別ケアの実践の主要性を理解する ・利用者の個別ケアを実践するために他職種協働や関係機関との連携について知る			
各回のテーマ		内容の概要	
①多様な介護の現場を理解する ②利用者・家族とのかかわりを通してコミュニケーションを図り、利用者を理解する ③日常生活援助を見学し、介護業務の実際を理解した上で可能な範囲で体験し学ぶ ④他職種の役割と他職種との連携について理解する			
〔使用テキスト・参考文献〕		〔単位認定の方法及び基準〕	
最新・介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習（中央法規出版）		（認定評価）出席が総時間数の5分の4以上ある者 成績評価が3以上の者 （評価基準）実習指導者 50％ 教員 50％	

授 業 概 要 （介護福祉科）

授業のタイトル（科目名） 介護実習 II		授業の種類 実習	必修・選択 必須
授業の回数		配当学年・時期 2年 前期	時間数（単位数） 180時間（6単位）
授業担当者	実務経験	実務内容	
中嶋 和泉	○	介護福祉士として特別養護老人ホーム・通所介護事業所・有料老人ホームにて10年間勤務	
[授業の目的]			
地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的能力を習得する学習とする。本人の望む生活の実現に向けて、他職種との協働の中で、介護過程を実践する能力を養う学習とする。			
[授業の概要]			
介護過程の展開を通して対象者を理解し、本人主体の生活と自立を支援するための介護過程を実践的に学ぶ内容とする。 ＜実習施設種別＞2年生 6～7月 24日間（介護老人福祉施設・介護老人保健施設）			
[授業終了時の達成課題（到達目標）]			
・受け持ち利用者の生活背景や生活リズムを理解し、必要な情報を収集し、自立支援の観点から介護過程が理解できる ・利用者の個別ケアを実施するために必要な介護が理解でき、他職種協働や関係機関との連携について理解する ・介護という職業の意義、職業倫理について考え、理解する			
[各回のテーマ・内容・方法]			
テーマ・主題		内容の概要	
①多様な介護現場を理解する ②利用者・家族とのかかわりをおしてコミュニケーションを図り、利用者を理解する ④他職種の役割と他職種との連携について理解する ⑤介護過程を展開し、個別援助計画の立案、実施、評価、修正を行う			
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
最新・介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習（中央法規出版）		（認定条件）・出席が総時間数の5分の4以上ある者 成績評価が3以上ある者 （評価基準） 実習指導者 50％ 教員 50％	

授 業 概 要 （介護福祉科）

授業のタイトル（科目名） 認知症の理解Ⅱ		授業の種類 講義	必修・選択 必修
授業の回数 15回		配当学年・時期 2年 前期	時間数（単位数） 30時間（2単位）
授業担当者	実務経験	実務内容	
小津 順子	○	看護師として病棟・訪問看護・デイケアに勤務。認知症グループホームの管理者経験。老人保健施設での介護予防とレクリエーション援助業務を経て、地域高齢者への介護予防と生きがい支援活動を現在も継続中。	
〔授業の目的〕 認知症に対する深い知識を習得し、認知症の人や家族に対しての理解を深め、本人を主体とした質の高い介護が実践できる能力を養う。			
〔授業の概要〕 ・認知症のある人と「共に生きる」という概念を基に認知症を総合的に把握し、介護実践に生かすことができるようになる。 ・認知症ケアの歴史や理念を基に、認知症高齢者の現状や行政上の視点から介護の支援についての知識・理解を深めていく。			
〔授業終了時の達成課題（到達目標）〕 ・認知症ケアの歴史や認知症ケアの理念を習得し、専門職としての介護のあり方を考えることができる。 ・認知症の医学的特徴を理解している。 ・認知症の人の特徴的な心理と行動を理解しアセスメントを行い介護実践につなげられる。 ・認知症の制度について理解し、地域や関連機関との連携と協働ができる。 ・認知症人と、その人が介護にあたる難しさと家族への支援の必要性が理解できる。			
〔各回のテーマ・内容・方法〕			
回	テーマ・主題	内容の概要	
1	介護福祉士に求められる視点	認知症高齢者の現状と介護福祉士に求められる視点 医学的側面からみた認知症の基礎	
2	生活支援に必要な基礎知識①	認知症と関わる脳の部位 中核症状	
3	認知症の人の体験の理解	映像学習	
4	若年性認知症	若年性認知症の理解	
5	検査の実際	認知症に対する検査と診断までの過程	
6	治療の実際	治療の実際 種々の療法 リハビリテーション	
7	こころとからだの変化と日常生活①	認知症の人の特徴的な心理	
8	こころとからだの変化と日常生活②	認知症の具体的な心理的現象 BPSDの背景	
9	こころとからだの変化と日常生活③	中核症状と周辺症状の関係	
10	こころとからだの変化と日常生活④	認知症の人の特性の理解 パーソンセンタードケア	
11	対応の基本と応用①	認知症の人に対する介護過程の展開の基本	
12	対応の基本と応用②	センター方式 ひもときシートを活用したアセスメントの実際	
13	連携と協働	地域サポートの重要性と実際	
14	家族への支援	認知症の人に対する家族の混乱の理解 レスパイトケア	
15	まとめ	筆記試験 習得目標の確認	
〔使用テキスト・参考文献〕		〔単位認定の方法及び基準〕	
最新介護福祉全書 認知症の理解と介護（メヂカルフレンド社）		（認定基準）出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が3以上の者 （評価基準）筆記試験50％、レポート20％、授業態度30％	

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります。

授 業 概 要 （介護福祉科）

授業のタイトル（科目名） 障害の理解		授業の種類 講義	必修・選択 必修
授業の回数 20回		配当学年・時期 2年・通年	時間数（単位数） 60時間（4単位）
授業担当者	実務経験	実務内容	
山田 恭子	○	急性期慢性期病院にて看護師として20年勤務し、老人保健施設で8年している。	
〔授業の目的〕 障害の概念・理念を理解する。障害とは何かを理解し、介護の専門職に必要な様々な知識を理解する。 障害のある人の生活を支えるという視点から、医療関連職種と連携し支援を行うための、心身の機能及び関連する障害や疾病の基礎的な知識を身につける。 障害のある人の心身の機能が生活に及ぼす影響について理解し、本人と家族が地域で自立した生活を継続するために必要とされる心理・社会的な支援について基礎的な知識を養う。			
〔授業の概要〕 障害のある人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、障害のある人の地域での生活を理解し、本人のみならず家族や地域を含めた周囲の環境への支援について理解するための基礎的な知識を習得する学習とする。			
〔授業終了時の達成課題（到達目標）〕 1. 障害のある人に対して介護の専門職に必要な知識を得ることができる。 2. 障害の理念が理解でき、障害のある人に対する生活支援について考えることができる。			
〔各回のテーマ・内容・方法〕			
回	テーマ・主題	内容の概要	
1	オリエンテーション	授業の進め方・障害の基本的な考え方	
2	障害の基礎的理解①	・障害の概念 ・障害者福祉の基本理念 ・ICFの考え方	
3	視覚障害のある人の理解①	・視覚障害についての基礎知識・視覚障害のある人の心理、日常生活への影響	
4	聴覚障害のある人の理解	・聴覚障害についての基礎知識・聴覚障害のある人の心理、日常生活への影響	
5	言葉に障害のある人の理解	言葉の障害の定義・心理・日常生活への影響	
6	内部障害のある人の理解①	・内部障害の定義と動向 ・心臓の機能障害のある人 ・呼吸器の機能障害のある人 ・腎臓の機能障害のある人 ・排泄器官の機能障害のある人 ・小腸の機能障害のある人 ・肝臓の機能障害のある人 ・ヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能障害のある人	
7	内部障害のある人の理解②		
8	内部障害のある人の理解③		
9	内部障害のある人の理解④		
10	まとめ	総まとめ・筆記試験	
11	全介助を必要とする人および難病の人の理解	寝たきり状態の人、難病の人の理解	
12	発達障害のある人の理解①	・発達障害の概念を理解する ・発達障害の理解とアセスメント ・自閉症スペクトラム障害の理解（事例演習） ・てんかんについての基礎知識	
13	発達障害のある人の理解②		
14	発達障害のある人の理解③		
15	発達障害のある人の理解④		
16	精神障害のある人の理解①	・精神障害について学ぶ意義を理解する ・精神障害についての基礎知識 ・アセスメントの基本を知る ・精神障害者の福祉（入院から在宅へ） 神障害者の支援 ・アディクション（アルコール・薬物）治療	
17	精神障害のある人の理解②		
18	精神障害のある人の理解③		
19	障害者介護における連携と協働 障害者をもつ家族への支援	・地域におけるサポート体制・障害受容の過程・家族の介護力の評価と援助	
20	まとめ・国家試験対策	練習問題・筆記試験	
〔使用テキスト・参考文献〕		〔単位認定の方法及び基準〕	
最新介護福祉全書 障害の理解 （メダルフレンド社）		（認定条件） ・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が3以上の者 （評価基準） ・筆記試験50％ ・課題レポート 30％ ・授業態度 20％	

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります。

授 業 概 要 （介護福祉科）

授業のタイトル（科目名） こころとからだのしくみⅡB		授業の種類 講義	必修・選択 必修
授業の回数 15回		配当学年・時期 2年・前期	時間数（単位数） 30時間（2単位）
授業担当者	実務経験	実務内容	
林 彩香	○	看護師として重症心身障害児・者病棟にて4年、健康診断関連業務1年、訪問看護ステーションにて2年勤務。	
[授業の目的] 介護実践に必要な根拠となる、心身の構造や機能および発達段階とその課題について理解し、対象者の生活を支援するという観点から、身体的・心理的・社会的側面を総合的にとらえるための知識を身につける。 基礎的知識を基に移動、食事、入浴、排泄、睡眠、死にゆく人等について専門職としての介護の実践に生かせる力を養う。			
[授業の概要] 基礎的知識の理解を確認しながら、移動、食事などの介護の場面に円滑につなげられるようにする。 介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理、人体の構造や機能を理解する学習とする。			
[授業終了時の達成課題（到達目標）] 移動、食事、入浴、清潔、排泄、睡眠など介護を必要とする人の生活・自立支援に必要な体のしくみを理解し、解剖生理の基礎的知識を習得する。 死にゆく人のとらえ方を学び、人が終末期から死に至るまでを理解し、介護者としてのあり方を考えることができる。 介護過程を展開する上で基礎的知識が必要であることを理解し、専門職としての責任を自覚することができる。			
[各回のテーマ・内容・方法]			
回	テーマ・主題	内容の概要	
1	オリエンテーション	オリエンテーション 1年次の復習	
2	活動・移動に関連したこころとからだのしくみ①	身体 of 骨と関節、筋、神経の働きのしくみ	
3	活動・移動に関連したこころとからだのしくみ②	活動・移動の目的と生理的・心理的意味・機能低下による影響	
4	身じたくに関連したこころとからだのしくみ①	身じたくに関連したこころとからだのしくみ	
5	身じたくに関連したこころとからだのしくみ②	機能の低下や障害が及ぼす身じたくへの影響	
6	食事に関連したこころとからだのしくみ①	食事に関連したこころとからだのしくみ	
7	食事に関連したこころとからだのしくみ②	生活場面における変化の気づき 医療職との連携	
8	入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ①	入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ	
9	入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ②	機能の低下や障害が及ぼす影響 医療職との連携	
10	排泄に関連したこころとからだのしくみ①	排泄に関連したこころとからだの基礎知識	
11	排泄に関連したこころとからだのしくみ②	排泄に関連したこころとからだのしくみ	
12	睡眠に関連したこころとからだのしくみ①	機能の低下や障害が及ぼす排泄への影響 医療職との連携	
13	睡眠に関連したこころとからだのしくみ②	睡眠に関連したこころとからだのしくみ	
14	こころとからだの変化	終末期の変化 形態と機能の変化が及ぼす影響 医療職との連携	
15	まとめ	まとめ 筆記試験	

〔使用テキスト・参考文献〕	〔単位認定の方法及び基準〕
最新介護福祉全書「こころとからだのしくみ」 メヂカルフレンド社	(認定条件) 出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が3以上の者 (評価基準) テスト50%、提出物30%、授業態度20%

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります。

授 業 概 要 （介護福祉科）

授業のタイトル（科目名） 医療的ケア II		授業の種類 講義・演習	必修・選択 必修
授業の回数 10回		配当学年・時期 2年・前期	時間数（単位数） 30時間（2単位）
授業担当者	実務経験	実務内容	
山田 恭子	○	急性期慢性期病院にて看護師として20年以上勤務、老人保健施設も8年勤務している	
[授業の目的]			
・医療的ケアが必要な人の安全で安楽な生活を支えるという観点から、医療職との連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術を習得する。 ・喀痰吸引についての基礎知識を習得し、安全かつ適切に行う。			
[授業の概要]			
・医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を講義・演習を通して習得する。 ・喀痰吸引について基礎知識を習得し、安全かつ適切に行うことができる。			
[授業終了時の達成課題（到達目標）]			
・喀痰吸引をより安全かつ適切に行うことができるように基礎的な知識を身につける。 ・呼吸器系の解剖生理を理解し、吸引の必要性や留意点を理解し緊急時対応など実践的な知識・技術を身につける。 ・専門職としての学習意欲を高め、知識の習得に努める。			
[各回のテーマ・内容・方法]			
回	テーマ・主題	内容の概要	
1	オリエンテーション	1年次の振り返り・呼吸器官のしくみ・呼吸の状態	
2	喀痰吸引の基礎的知識・実施手順①	喀痰吸引とは・吸引に使用する器具・演習の進め方	
3	喀痰吸引の基礎的知識・実施手順②	喀痰吸引（口腔）のデモンストレーション・演習	
4	喀痰吸引の基礎的知識・実施手順③	喀痰吸引（口腔）の評価・演習	
5	喀痰吸引の基礎的知識・実施手順④	口腔喀痰吸引の評価・鼻腔吸引のデモンストレーション・演習	
6	喀痰吸引の基礎的知識・実施手順⑤	喀痰吸引（鼻腔）の評価・演習	
7	喀痰吸引の基礎的知識・実施手順⑥	鼻腔吸引の評価・気管カニューレ内吸引デモンストレーション	
8	喀痰吸引の基礎的知識・実施手順⑦	気管カニューレ内吸引評価（演習）	
9	喀痰吸引の基礎的知識・実施手順⑧	気管カニューレ内吸引評価・国家試験対策	
10	まとめ	総まとめ・筆記試験	
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
最新介護福祉全書 医療的ケア（メヂカルフレンド社）		（認定評価）・出席が総時間数の3分の2以上 ・成績評価が3以上の者（評価基準）・筆記試験 50％ ・実技 40％ ・授業態度 10％	

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります。

授 業 概 要 （介護福祉科）

授業のタイトル（科目名） 医療的ケアⅢ		授業の種類 講義・演習		必修・選択 必修	
授業の回数 15回		配当学年・時期 2年・後期		時間数（単位数） 30時間（2単位）	
授業担当者		実務経験	実務内容		
山田 恭子		○	急性期慢性期病院にて看護師として20年勤務し、介護老人保健施設で8年勤務している。		
[授業の目的]					
・医療的ケアが必要な人の安全で安楽な生活を支えるという観点から、医療職との連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術を習得する。 ・経管栄養についての基礎知識を習得し、安全かつ適切に行うことができる。					
[授業の概要]					
・医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を講義・演習を通して習得する。 ・経管栄養についての基礎知識を理解し、演習を通して技術を習得する。					
[授業終了時の達成課題（到達目標）]					
・経管栄養をより安全かつ適切に行うことができるように基礎的知識を身につける。 ・消化器系の解剖生理を理解し、経管栄養の必要性や留意点・実践的な知識・技術を身につける。 ・専門職として学習意欲を高め、知識の習得に努める。					

[各回のテーマ・内容・方法]

回	テーマ・主題	内容の概要
1	経管栄養の基礎的知識・実施手順①	消化器系のしくみと働き・消化器の主な症状
2	経管栄養の基礎的知識・実施手順②	経管栄養とは・経管栄養で用いる器具・器材とそのしくみ
3	経管栄養の基礎的知識・実施手順③	注入する内容に関する知識・経管栄養実施上の留意点
4	経管栄養の基礎的知識・実施手順④	子どもの経管栄養について・経管栄養に必要なケア
5	経管栄養の基礎的知識・実施手順⑤	経管栄養を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意
6	経管栄養の基礎的知識・実施手順⑥	経管栄養により生じる危険、注入後の安全確認
7	経管栄養の基礎的知識・実施手順⑦	報告及び記録・演習の手順
8	経管栄養の基礎的知識・実施手順⑧	経鼻・胃ろう・腸ろう経管栄養（演習）
9	経管栄養の基礎的知識・実施手順⑨	経鼻・胃ろう・腸ろう経管栄養（演習）
10	経管栄養の基礎的知識・実施手順⑩	経鼻・胃ろう・腸ろう経管栄養（演習）
11	経管栄養の基礎的知識・実施手順⑪	経鼻・胃ろう・腸ろう経管栄養（演習）
12	経管栄養の基礎的知識・実施手順⑫	経鼻・胃ろう・腸ろう経管栄養（演習）
13	まとめ	国家試験対策
14	まとめ	総まとめ・筆記試験
15	まとめ	振り返り
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]
最新介護福祉全書 医療的ケア (メヂカルフレンド社)		(認定評価) ・出席が総時間数の3分の2以上 ・成績評価が3以上の者 (評価基準) ・筆記試験 50% ・実技 40% ・授業態度 10%

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります。